

なっている。今こそ、国民、市民が立ち上がり、安倍の暴走を止める力が必要だ。そのため、革新懇の役割は大きい。

岡崎での一点共闘は

石田事務局長の経過報告、活動方針案の提案、野村会計の会計報告、予算案の提案、木俣会計監査の監査報告のあと、討論が行われ、積極的な意見、提案が10名からされました。

安法制懇の集団的自衛権行使容認の報告書提出の動きなど、安倍内閣への抗議や地元国会議員事務所への要請など行おう。

北海道のTTP、福島原発、沖縄の新基地建設と、一点共闘でオール県ぐるみの反対運動が進んでいる。岡崎の一点共闘は、矢作地区のまちバス要求。矢作地区の市会議員全員に紹介議員になつてもらえるような運動が必要。

新聞を見るたびに安倍の暴走に腹が立つ。暴走を止め、対案を国民に伝えるにはもつと仲間が必要。

さよなら原発！11行動

岡崎行動も17回を数えた。参加者の多寡ではなく、継続が大切で。だから、いつも同じやり方ではなく、企画を考えよう。

討論のまとめと合わせて、報告と提案は採択されました。

そして、荒川和美代表世話人、石田邦芳事務局長は始め24名の役員は全員留任の提案がされ、承認されました。者もみえました。

石田邦芳事務局長



八田ひろ子さんも岡崎に活動の拠点を移し革新・岡崎の会に加入

日本が攻撃されたらどうするのだ 中国の有り様を見たら必要では

安法制懇(安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会)が、戦後一貫して認めてこなかった集団的自衛権行使の憲法解釈の変更に向けた報告書を提出します。それに抗議する宣伝署名行動を、5月13日夕方、東岡崎駅前で7人で行い、「集団的自衛権行使は平和憲法の破壊です。憲法を守り、生かしてください」という請願署名が7筆寄せられました。

60代の男性と議論になりました。彼は「日本が攻撃されたらどうするんだ。独立国として自衛権があるんだから。中国が尖閣諸島でやっていることを見よ」と言うのです。「私は賛成だから署名しない」と言う20代の青年も「日本が攻められた」というのです。

本場に中国が尖閣諸島や南シナ海でやっていることは、「わ

が国を取り巻く安全保障環境は厳しい」と言う安倍首相などの後押しで、「安倍の応援団」と言える行動です。

だからといって安倍首相のように「力には力で対抗」する冷戦期の発想では中国と同じになつてしまいます。同盟国米國も中国を警戒しつつ平和的外交的な対応を求めています。「力による現状変更は認めない」として、平和的外交的な解決を両者に求めることです。

集団的自衛権とは日本が攻撃されていなくても、密接な同盟関係にある国(同盟国)に対する攻撃を、日本への攻撃とみなして同盟国を攻撃した国を攻撃することです。

それにしても毎日流される中国の報道の影響は大きいものです。一人の方は「日本が攻撃されたら」と安倍首相と同じ情勢認識に立っています。その

認識は別として、これまでの政府の憲法解釈で自衛隊の存在根拠となる個別的自衛権で対処できることです。日本の施政下にある尖閣も個別的自衛権で対処できます。

尖閣をめぐる紛争を戦争にまでさせないことこそ外交です。しかし、安倍内閣は、「常に門戸は開かれている」と言いつつ、「領土紛争がある」としていませんから、話し合う根拠がありません。対立を煽って集団的自衛権行使を容認し、日米同盟を強化をねらっていますから話し合う気もありません。

「自衛」という言葉から、「日本が攻撃されたら」とする人たちがまだまだたくさんみえるということ、もつともつと知らせなければと考えた宣伝行動でした。

